

報道機関各位

令和5年12月21日
北九州市デジタル市役所推進室**AIで未来型行政へ 市政変革に向けた実証開始！**

本年9月26日に開催したピッチ大会をきっかけに、事業者と協議を重ね、下記のとおり、生成AIを活用した実証を開始することとしましたので、お知らせします。

実証期間は、いずれも令和5年12月から令和6年3月までとなります。

記

1 AI市長秘書官(主管課:デジタル市役所推進室 事業者:寶結) (別紙1)

- ◇ 市長挨拶文案等について、これまでの市長の発言や職員へのメッセージなどを学習したAIが、市長の想いを代弁した文章を作成します。
- ◇ 期待される効果：市の取組や市長の想いの共有、職員の作業時間の短縮

2 AI会計室(主管課:会計室 事業者:NEC) (別紙2)

- ◇ 会計事務に関する職員の質問に対して、北九州市の例規集やマニュアル等を学習したAIによって、回答を自動化します。
- ◇ 期待される効果：会計事務レベルの向上、職員の作業時間の短縮

3 AI提案箱(主管課:子ども家庭局総務企画課 事業者:寶結) (別紙3)

- ◇ 「(仮称)子ども憲章」の制定に向け、実施したアンケート結果(小中学生・保護者等:約6万件)について、AIが分析します。
- ◇ 期待される効果：新たなアイデアの発掘、職員の作業時間の短縮

【問い合わせ先】

デジタル市役所推進室

TEL 093-582-3007 担当課長：須山 担当係長：高塚

AI 市長秘書官（主管課：デジタル市役所推進室 事業者：竇結）

◆実証の概要

挨拶文等を作成する際に、過去の市長挨拶文や定例記者会見録、職員へ向けたメッセージ等を学習させたAIが文案を作成する。職員は生成された文案に加除修正を行い、挨拶文等を完成させる。

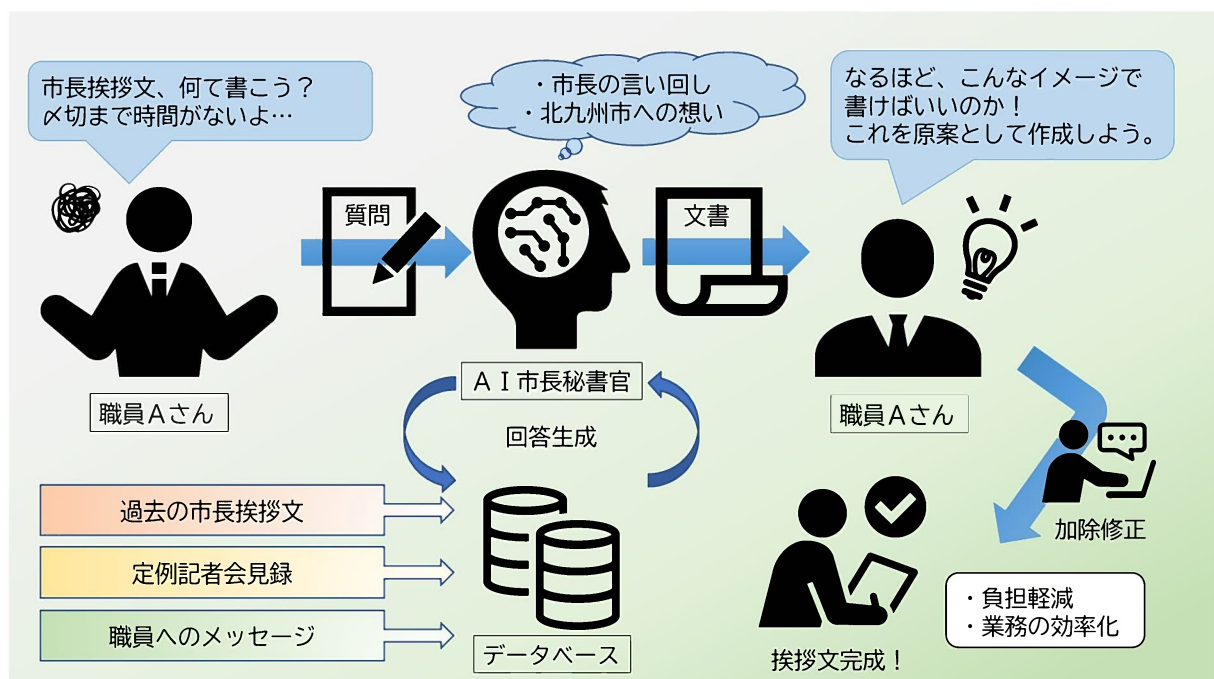
本実証では、職員の挨拶文等作成にかかる時間を省力化するため、生成された文案から最終的な挨拶文完成までの間にどの程度修正を要するのかを検証する。また、単なる挨拶文案等の生成ではなく、市の取組や市長の想いを文案としてどの程度表現することができるのかも注目する。

◆期待される効果

「誰でも」「いつでも」「即時に」作成したい文案が生成されることで、そこから完成形をイメージしながら加除修正を行いやすくなり、作成を行う職員の負担軽減につながる。

また、市の取組や市長の想いを文案に表現することで、関係者に共有できる。

【参考】AI 市長秘書官実証イメージ



AI 会計室（主管課：会計室 事業者：NEC）

◆実証の概要

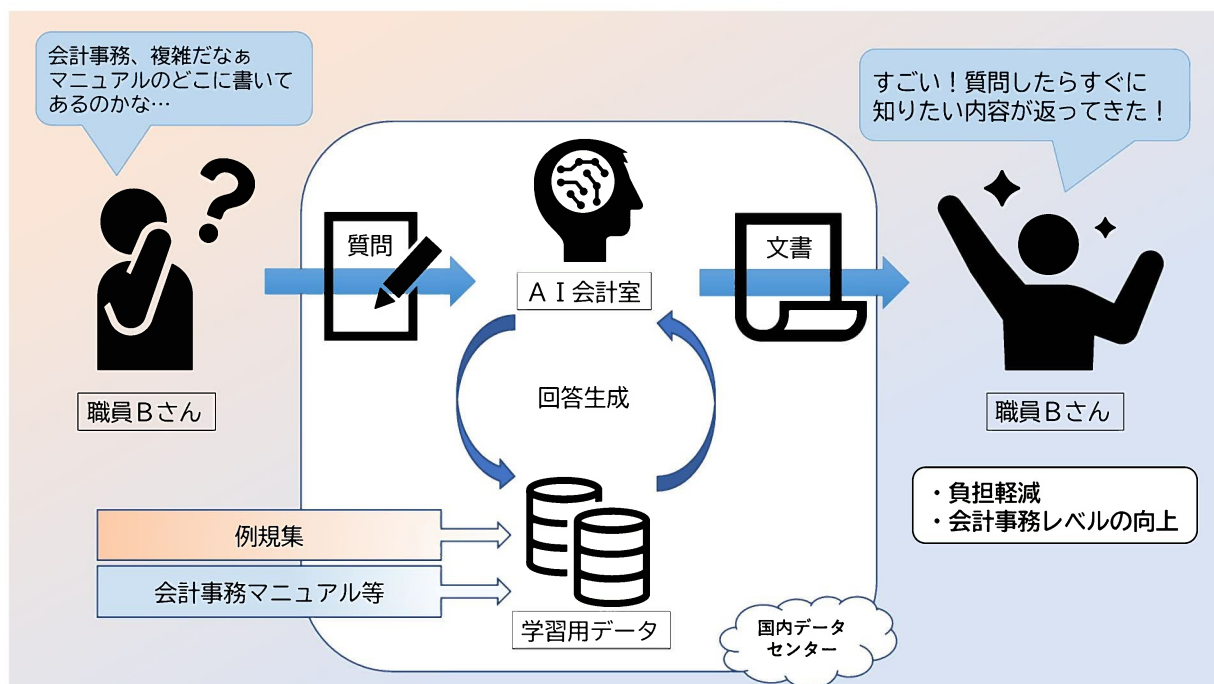
各課の会計事務担当職員の質問に対して、あらかじめ北九州市の例規集やマニュアル等を学習したAIが、自動的に回答する。

本実証では、会計事務手続きの質問に対する回答精度、NECが開発した国産生成AIの実用性などについて検証する。

◆期待される効果

「誰でも」「いつでも」「即時に」知りたいことが回答内容として生成されることで、問い合わせを行う各課の会計事務担当職員の負担を軽減するとともに、会計事務レベルをより向上させる。加えて、会計室の負担軽減も図る。

【参考】AI 会計室実証イメージ



AI 提案箱（主管課：子ども家庭局総務企画課 事業者：賈結）

◆実証の概要

「(仮称)子ども憲章」の制定に向け、市立の小中学生や保護者等を実施したアンケート結果（約6万件）について、生成 AI が分析を行う。

本実証では、アンケートの分析精度に加え、生成 AI が分析に要する時間と、職員自ら分析した場合に要する時間、それぞれの分析結果を比較・検証する。

「アンケートの内容」

- ①小中学生（約5万件）：大人に言いたいことはなんですか
- ②保護者等（約1万件）：子どもと一緒にいる場面で嬉しかったこと、周りに配慮してほしい場面

◆期待される効果

分析結果から導き出された「(仮称)子ども憲章」の方向性について、生成 AI が提案することで、新たなアイデアを発掘する。

また、生成 AI によって捻出された職員のリソースを他の業務に振り向けることが可能になる。

【参考】AI 提案箱実証イメージ

